

企業名： TKC

レポート名： TKC 統合報告書 2025

1. この会社が目指す姿が理解できるか（将来）

2.

理解できる。まずイントロダクションの部分で「会計事務所の支援と成長」、「サステナビリティ社会への貢献」、「地方公共団体の支援と成長」の三つのテーマを示すことで企業の目指す方向性、重要視しているテーマが理解しやすくなっている。どのようなプロセスでどのような社会を目指しているかについても示されている。各テーマの推進についても言及されており、例えば、会計事務所事業では①黒字企業の割合を高めて優良企業を育成する②適正申告により租税正義の実現に貢献する③社会からの税理士への期待を一層高めると書かれている。これらによって各事業の推進方法についても理解が容易だと感じた。連結数値に基づく指標、個別数値に基づく指標として「対前年度売上高比率 103%以上」「自己資本利益率 11%以上」「自己資本比率 80%以上」「限界利益率 70%以上」「配当性向 50%以上」を示しており、具体的な数値目標を複数示していることは信頼に値し、将来の姿のイメージも容易になっていると感じた。

2. この会社の競争優位性が理解できるか（現在）

強みの生み出し方、競争優位性ともに理解できる。

会計事務所と地方公共団体に専門的な事業展開をし、両業界に共通するコンプライアンスの高さにフォーカスして強さを生み出していることが説明されていて、事業展開の業界を限定し、法令遵守やデータセンターに代表される安全性に強みがあるということが理解できた。しかし、他社比較が示されていないので完全に理解することは難しい。

自社の強みに関しては定量的なデータが載せられており、しっかりと情報開示がなされている印象を受けた。特にデータセンターの説明に関しては「正社員による 24 時間 365 日の有人監視」や「停電時の自家発電による 72 時間の連続稼働」などの定量的な情報により強みを理解できる。日本データセンター協会が制定したファシリティ基準においてティア 3 以上に対応しているという部分においても外部機関の評価を載せることで TKC の強みに対する信憑性がより高まっていると考えられる。また、サポートフォーメーションのページにおいては万が一のシステム障害に対する「100%顧客救援」を謳っているがそのサポート体制は「システム開発部

門」、「SCG と自治体営業スタッフ」、「ヘルプデスクサービス」、「オペレーション部門」の 4 部門から構成されていることを説明し、各部門の説明も記されている。そしてこのサポート体制によって東日本大震災の発生時に震度 6 強の揺れで周辺地域が停電したデータセンターでもサービスが 1 秒も停止しなかったことが記されており、データセンターの安全性が非常に高いこと、そして TKC の競争優位性の理解ができる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか（変化）

p46 では日本の売上高トップ 100 社のうち 9 割以上が TKC のシステムを採用していると書かれている。こういったシステムはスイッチングコストが高いと考えられるので現時点で使用しているサービスを継続して使用する可能性が高いと考えられるのでその意味では現時点での採用企業数の多さは TKC の競争優位性に持続性があることを表していると考えられる。長年にわたって継続的に売り上げていることも競争優位性の持続性を示していると考えられる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

結論としてあまり人的資本の向上が達成できるかどうか分からないと感じた。

おそらく社員のスキル等言及しているのは p26 の「TKC の強さの源泉/TKC の人材」の部分だけである。このページに書かれているのは書籍購入費用の会社負担や学習支援制度、健康サポートの制度などである。もちろん重要ではあるものの、こうした費用援助の制度などは多くの会社で整備されている印象なため、この会社ならではの魅力として捉えられなかった。加えて、こうした研修や資格学習などは間接的なスキル獲得の印象があり、実際の仕事の中ではどのような経験が積めるのかについてより多くの情報を知りたいと感じた。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

良かった点は統合報告書の一部に動画にアクセスできるページがあり、視覚的に理解ができるようになっていたことだ。これによってより多くの情報を統合報告書に載せることができていると感じた。

改善余地として人的資本の価値向上をよりアピールするためには複数の社員のキャリア事例やインタビューを載せるべきだと感じた。一社員レベルのキャリアの変遷等を知ることでこの会社のキャリアをより容易にイメージでき魅力が伝わりやすいと感じた。また、入社してからど

のような時間軸で任される仕事が変わっていくのかといった情報があると TKC でのキャリアが解像度高く理解でき、より魅力を感じやすくなると考えた。

また、ROE の値への言及はあるものの、どういった株主資本コストを想定しているのかなどが開示されていない部分にも改善余地があると感じた。ROE の値は開示されていてもどのような株主資本コストを想定した ROE なのかによって投資家からの評価は変化する。こうした部分に関しても情報を開示していくことで投資家サイドとの情報の非対称性が是正され、よりよい統合報告書になると感じた。